



山本昭さん



温故知新の看板と発動機

みなさん！石油発動機って知っていますか？

「石油発動機」は大正時代に米国から輸入されたのが始まりで、昭和40年ごろまで農家の精米機、脱穀機、もみすり機など、また工場では各種の工作機械や織機の動力源として活躍し、農工業の近代化を担ってきた動力の歴史遺産とも言われています。

今では用済みとなり廃棄処分されているが、この時代の流れを惜しみ石油発動機を後世に保存しようとする活動が全国的に立ち上がり愛好会も結成され楽しんでいる仲間がいます。

愛好会の会員が保存している発動機の台数は多い人で200台以上保管しています。2サイクル、4サイクル、ディーゼルエンジン、焼玉式発動機、USA発動機などそれぞれの会員が納屋の軒先で雨ざらしになって赤錆したもの、破損また台座の腐敗したものを修復し、そして再生した新たな息吹の快い排気音と煙の匂いを楽しんでいます。

山本昭さん(76歳)は石油発動機の魅力に取り憑かれたマニアの一人です。山本さんは48歳まで地元の自動車部品や高圧架線金具を製造する会社のサラリーマンとして勤務していました。

ところがあるときに自社の敷地内にある樹木を剪定している庭師の仕事を見て、自分もあんな風に綺麗に剪定ができるようになりたいと一大決心をして会社を退職しました。そして知り合いの庭師を尋ね勉強を積み重ねました。庭師としての資格である造園技能士と造園施工管理技士の資格を取得しプロの庭師として73歳まで頑張っておりました。

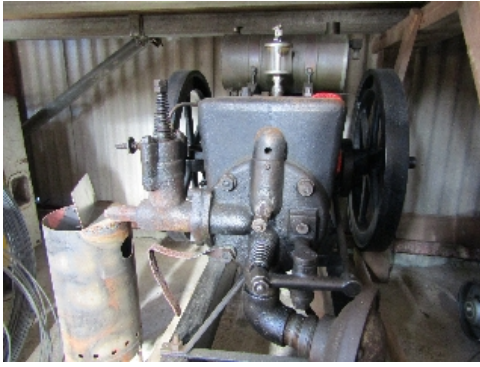


静岡県石油発動機愛好会の旗



石油発動機を捜し求めた時の看板

庭師の仕事をしている時に、親戚の方から石油発動機なるものがマニアに蒐集されていることを知らされました。そこでお客さんに蔵や納屋に眠っていないかどうか聞きながら庭師の仕事をしていました。最初は石油発動機を持っている方の情報を入手しその発動機を譲って頂いたり、写真の様に許可を得て看板を置かせて頂き倉庫に眠っている発動機を入手しながらブローカー的なことをしていました。(多少の収入にもなりました)しかし、埃まみれで動かなくなった石油発動機を自分で修理して実際に動かしているとその魅力にどんどん取り憑かれてしまい、愛好会のメンバーと一緒に楽しむようになりました。今では静岡県石油発動機愛好会の副会長をされ愛好会のお世話をされています。



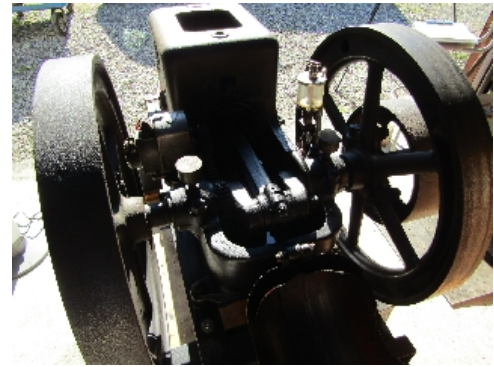
焼玉式石油発動機



エンター発動機(静岡県掛川市の会社が製造)



山本さん保有の石油発動機



石油発動機

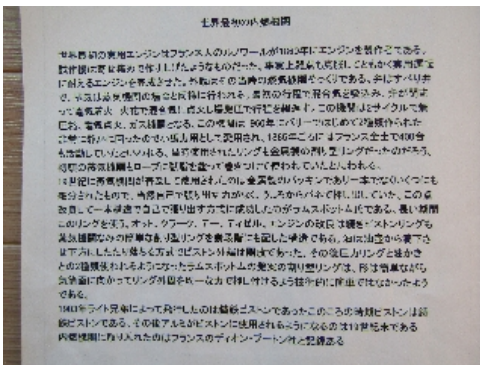
実際に石油発動機を収納されている倉庫へ伺い拝見させていただきました。山本さんが愛して止まない石油発動機は「温故知新」という言葉がぴったり当てはまるものだといいます。知り合いの書家に書いてもらった看板もありました。現在は23台ほど所有していますが多いときは80台ほど所有していたようです。どの発動機にも愛着があるといます。発動機に囲まれた山本さんはまるでおもちゃに囲まれた子供のようでした。いつも笑顔で嬉しそうに一台一台説明をしてくれました。焼玉式発動機、年代が古いもの、台数が少ないもの、どこで作られたかなど詳細に説明をしてくれました。山本さんが石油発動機の魅力の一つに挙げたのは、構造が非常にシンプルでありパーツ部品もそれほど多くはなく自分でも修理ができるということです。今ではお払い箱になってしまった古い機械でもピストン、クランクを動かして動輪を回し、これにベルトを掛けて脱穀機や、もみすり機、製茶機に工作機械、織機の動力源になった時代があったことにも愛着を感じるということです。



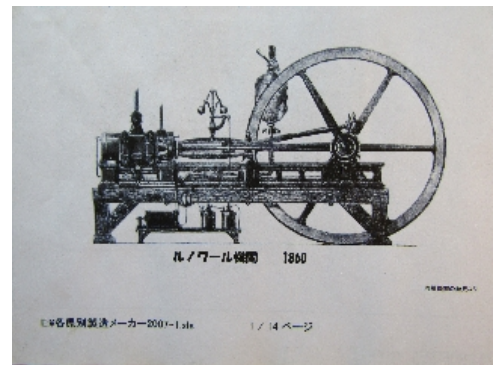
森下泰伸さんがまとめた資料

静岡県	1 神田製機製作所	オリエント	
	2 オレコン農機	オレコン	
	3 ビクターオート社	ビクターオート	
	4 三菱重工	三菱	
	5 新三重工	クイマ	
	6 香取機工所	アサギ	
	7 高橋機軸製作所	エンター	
	8 藤山	エンター	大玉から
	9 本田村元工業	四ツウツツ型	
	10 静岡動力器具研究所	ギンワ	
	11 伊藤機工所	ホンダ	
	12 静岡動力製作所	スズキ	
	13 中山機工所	ホンダ	
	14 藤原機工所	ホンダ	
	15 藤原機工所	ホンダ	
	16 藤原機工所	ホンダ	
	17 藤原機工所	ホンダ	
	18 藤原機工所	ホンダ	
	19 藤原機工所	ホンダ	
	20 藤原機工所	ホンダ	
	21 藤原機工所	ホンダ	
	22 藤原機工所	ホンダ	
	23 藤原機工所	ホンダ	
愛知県	1 動力器具研究会	組	
	2 丹羽製機製作所	組	

当時の静岡県内で発動機を製造した会社



世界最初の内燃機関



ルノワール機関(1860年)

四国在住のマニアである森下泰伸さんが2007年(平成19年)にまとめた資料によると過去に製造された発動機が502種類、過去に製造されたメーカーが419社になるということです。静岡県にも16社ほどあったようです。構造がシンプルなため小さな鉄工場でも作られていたようです。



開会の挨拶をする山本副会長



会員の皆さんで記念写真



クレーンを使って発動機を下ろす



一斉に始動する石油発動機



冷却水でコーヒー缶を温めている



売り物の石油発動機

山本さんと話を進める中で、2月2日(日)に静岡市清水区の真崎海岸の防潮堤の広場で静岡県石油発動機愛好会の主催による運転会があるというので当日行ってみました。他県からの愛好会の皆さんも参加され31台の石油発動機が並んでいました。山梨県、愛知県、岐阜県、福井県などから集まっていました。9:00～開会の挨拶があり早速運転開始、冷却水や燃料を入れて始動です。スコッ!スコッ!スコッ!ドゥ!ドゥ!ドゥ! 動輪を手で回しチョークを調整しながら始動させるときの音も魅力的でした。また、オイルの焼ける臭いも魅力の一つです。始動してからはゆっくり回転しているものや早い回転のものなど色々のリズムの音が流れています。バックに霊峰富士を眺めながら聴くこの回転音がマニアにはたまらないようです。今日の運転会は最高のロケーションで開催され皆さん満足顔でした。童心に返った子供のようなようでした。



[富士山をバックに最高のロケーションで運転会](#)

[31台の石油発動機が勢揃い](#)

最後にもう一度山本さんに石油発動機の魅力について聞いてみました。

- ・石油発動機本体を含め部品の数は100個に満たないシンプルな構造に惚れ込んでいる。
- ・現在の高速回転で走る自動車やバイクのエンジンの原点になっていることに感動した。(温故知新)
- ・石油発動機の中でも数少ない機種を入手しそれを修理して保存する喜び
- ・古い物を後世に残したい。

これって男のロマンですね！女房にはなかなか分かってもらえない！（笑）

(お問合せ先 090-4859-0658 山本 昭 様)

小笠・榛南地区 生きがい特派員 高井 豊